

地域課題の解決に向けた取組

地域ぐるみで新たな林業の担い手育成の取組

上川北部森林管理署

1. はじめに

森林づくりを担う林業労働者の確保は、山村の活性化や雇用の拡大のためにも極めて重要です。

一方、林業労働力の動向を、「林業従事者」数で見ると、長期的に減少傾向にあります。

また、近年の林業生産活動の活発化などから、伐木・造材・集材従事者は、増加傾向にあります。植付や下刈、苗木づくりを担う育林従事者は、平均年齢は若返っているものの、減少傾向にあり、依然として高齢者の割合が高く、将来的に林業労働者を安定的に確保することが、地域の課題となっています。

2. これまでの取組と成果

こうした状況を踏まえ、当署では、昨年の5月に、北海道旭川農業高等学校と上川総合振興局北部森林室、下川町の4者が、実習等で包括的に連携協力することにより、未来の林業の

担い手となる人材を育成することを目的に「北海道旭川農業高等学校実習等の連携と協力に関する協定」を締結しました。



4者による協定の締結

具体的には、3ヶ年で林業の一連の流れを体験出来るプログラムとして、森林科学科の1年生で植樹、2年生で保育、3年生で伐採とキャリア教育（木材を活かした他産業などの現地見学や体験）を実施します。

昨年度は、森林科学科の全学年の生徒110名を対象に当署の旭川農業高等学校OBや若手職員等、延べ47名を派遣して、実習の指導・支援を行いました。

このほか、インターン生の受け入れとして、旭川農業高等学校2年生5名、下

川商業高等学校2年生2名、長野県林業大学校1年生1名を対象に、接遇マナー、国有林の紹介、林道新設現場の案内等を行いました。

生徒からは、「進路に役立たい」、「森林を守る重要性がわかった」等の謝辞がありました。



標準地調査の実習風景

これらの取組により、旭川農業高等学校から下川町森林組合へ、昨年度は1名、今年度も1名就職するなど、「下川町における連携」の成果が現れています。

また、高校の校長先生からは、「林業関連の公務員、企業等に進む卒業生の割合が確実に増えた」とのコメントをいただきました。

3. 今年度の取組

昨年に引き続き、5月に旭川農業高等学校森林科学科3年生36名、7月に2年生40名の生徒を対象に、当署から延べ16名の職員を派遣し、林業実習を行いました。

生徒からは、「将来、林業に従事することを希望したい」との声も聞くことができました。



枝打ち作業の実習風景

今後、9月には1年生の植樹等の実習、10月には2年生5名程度のインターン生の受け入れを予定しており、引き続き、地域ぐるみで、新たな林業の担い手育成の取組を推進していく考えです。